

A-15 遊ぼう 学ぼう

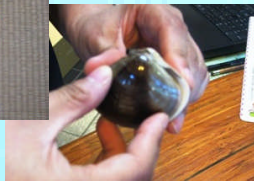
対象学年・教科
小学校1年以上
各教科、総合的な学習の時間

<たくさんありますが、一つからでも借りていただけます>



娘笑い（福笑い）（複製）

この「娘笑い」の袋には「皇軍御慰問」と書かれています。戦争の頃に使われていたものだと考えられています。【6セット】



貝おおい

貝の殻の表面だけを見て、対になるもう片方の殻を当てる遊びです。遊び方の説明も用意してあります。【6セット】



かるた

亀山市内のいろいろな1番や亀山市に關係する人物をかるたにしました。【各6セット】



歴史かるた

亀山市「1番」
かるた

江戸幕府出世双六

[900×1200(900×600が2枚)]

江戸時代に亀山城主石川家の家老を務めた加藤家に残された双六です。江戸幕府の役職がベースになっていて、出世を競う遊びです。遊び方も今の双六とは違っています。



<数人のグループでもできるように、紙盤の双六も8枚用意しています>
<双六用のこまとサイコロとのりものカードが入っています>



東海道五十三次双六

[900×1800 (900×600が3枚)]

江戸から京都へ進んでいく東海道五十三次の双六です。双六の絵から、宿場だけのところ、宿場と城下町だったところがわかります。

<双六用のこまとサイコロが入っています>



亀山市内いいところ双六

[900×1200 (900×600が2枚)]

歴史博物館をスタートして、特定のマスに止まったらその場所のカードがもらえます。ゴールの歴史博物館まで市内を一周する間に、カードをたくさん集めた人が勝ちです。双六をしながら、亀山市内の「いいところ」をどんどん知っていきましょう。

<双六用のこまとサイコロが入っています>
<グループ用の紙盤7枚も用意しています>
<カードは亀博HPよりダウンロードしてご使用ください>

亀山町繁昌商店壽語六

[380×550が7組]

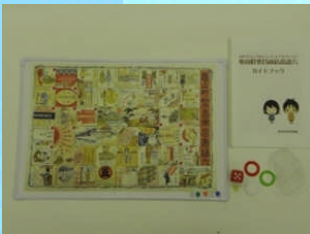
大正4年(1915)12月31日発行の双六をもとに作成しました。亀山駅をスタートし、当時の亀山町で営業していた商店(現在の亀山市東町、東丸町、御幸町、西町、東台町、本町、南崎町にあった商店)のマスを進んで、池の側(亀山城)へゴールする双六です。商店の中には、現在も営業している商店があります。

商店のマスを入れ替えて、オリジナルの双六にして楽しむこともできます。

- ※①順番シールが同じ色どうしでしかマスを入れ替えることはできません。
- ②マスの上に丸い輪(マグネット)を置くことで、各自が考えたオリジナルルールを適用させることもできます。

<ガイドブック(一つ一つの商店を説明した資料)が1冊入れてあります。>

<双六用のこま(6)とサイコロ(1)とマグネットの丸い輪(3)が入ったものが7箱入っています。>





校章パズル

[900×1200 (900×600が2枚)]

自分の通う学校の校章はよく知っていても、隣の学校の校章を覚える機会はありません。これは、そんな機会を得るために作ったパズルで、市内公立小中学校それぞれの学校史にもつながるパズルです。



いろはひらがな・カタカナパズル

[900×1800 (900×600が3枚)]

「いろはにほへと…」で始まる、かなの並びを歌であらわしたものです。パズルピースの文字は、江戸時代に今の関町沓掛で暮らしていた子どもの文字です。



浮世絵パズル

[573×395が10組]

博物館が所蔵する浮世絵をもとに作成しました。遊びながら浮世絵に親しむことができます。

浮世絵神経衰弱

[60×95, A(16枚)B(17枚), ABとも12組]

博物館が所蔵する浮世絵をもとに作成しました。遊び方はトランプでする神経衰弱と同じです。但し、浮世絵には版が変わったことによる色の違いや坂下のように同じ場所を描いたために、似た絵柄になっているものがあり、トランプより意外と難しくなっています。



伝統的な建築工法

木組みと仕口パズル(6種)

[500×122×122, 四方差し550×550×450]

木組(継手と仕口)というのは、木造の建物の柱や横木に利用している技術です。これは、木組の仕組みを調べることができるよう継いだり、はずしたりしやすく作ってあります。